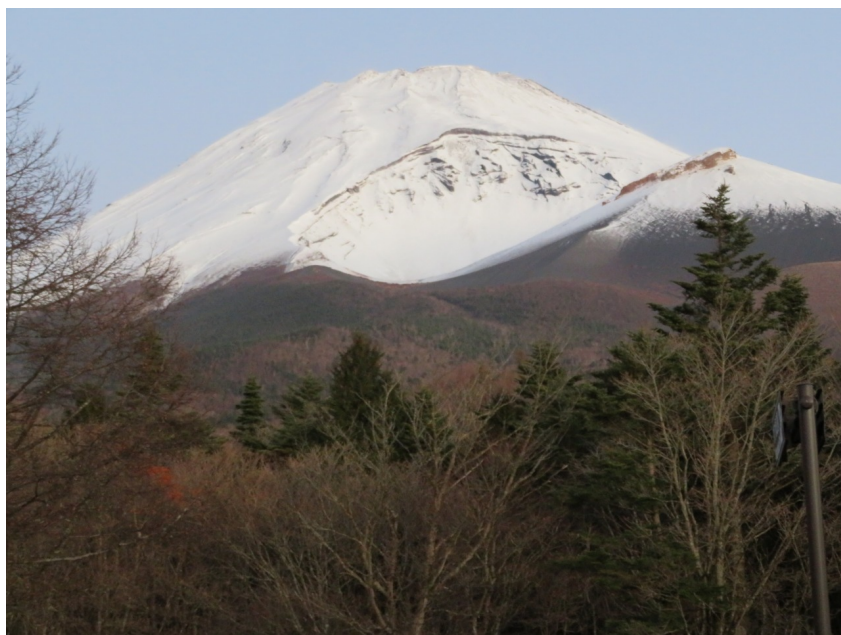


裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上弘二郎	写真・後藤
山行番	NO 2002	
日時	2022年11月27日(日) 晴れのち、涼しい	
山域	富士山・宝永山 2352m峰～宝永山 (2693m)	
コース	長泉 5:00 (後藤、山田) -健康センター-5:05 (河野) -竹沢種店前 5:10 (井上) -水ヶ塚公園駐車場 (加藤) -駐車場スタート 6:17-水ヶ塚登山道-御殿庭 (下) 7:51-御殿庭 (中) 8:19-2352m峰 8:50-宝永山 11:00-宝永第一火口底 (昼食) 11:48~12:17 下山開始-往路下山-水ヶ塚公園駐車場着 14:40-長泉	
標高差	水ヶ塚約 1448m～新六合分岐約 2470m＝約 1022m 第一火口底約 2420m～分岐 2710m (宝永山 2693m) ＝約 290m 宝永山登り返し=17m、第一火口登り返し=40m 合計＝約 1369m	
藪漕度	上り・下り なし	
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
宝永山で今シーズン初の雪山		
参加者	後藤、加藤、山田敬三、河野 (標高約 2000m で下山)、井上=5名	

夜明けが遅くなり、集合時間の朝 5 時は星が輝いている。天気は良さそうだ。御殿場から周遊道に入ると徐々に東の空が赤くなる。

水ヶ塚からは、富士山の近くにいることと、富士山が朝日を浴びて表面の凸凹が明確になったためかより立体的に浮び上がって見える。

今回は水ヶ塚公園からまっすぐに宝永火口の方へ登る須山口「登山」歩道。私には初めてのコース。今年少し前に、同じく水ヶ塚からスタートした時は、一度須山口下山歩道に合流してから幕岩、三辻、小天狗塚を経由して御殿庭上の宝永第三火口に出るルートだった。



朝の富士山

水ヶ塚から宝永までの直登は初めてだ。須山口「下山」歩道ルートは道や景色に変化があるが、須山口「登山」歩道は傾斜が一定で景色も変化がなく単調で退屈に感じる。

しかし効率よく短時間で一気に登ることができる。きつい傾斜が絶え間なく続くので休む時がなく精神的にきつく感じる。

今回は雪山装備のためアイゼン、ピッケルがザックに入り荷物が重い。やっぱり大汗をかいた。途中の一服で、頭の汗を払ったら朝日にキラキラと輝いて面白かったようで、加藤さんから「もう一回やって」何度もリクエストされた。

河野さんが徐々にバテてきた。8:03、標高約 2000m でギブアップ。下山しバスで帰ることとなった。



宝永山 2352m 峰

森林限界を超えると地面は歩きにくい火山礫になり、宝永第三火口の西側、2352m 峰の南側に出る。2352m 峰からは少しだけ緩やかになるが第二火口から 2460m の第一火口の縁までは約 100m 再びきつい傾斜が戻ってくる。

空気も薄くなるので、大体いつもこのあたりで苦しい。第一火口縁でアイゼンを装着し、ピッケルを持つ。山田さんはアイゼン、ピッケル初体験であった。山田さんの前から後藤さんが、後ろから加藤さんがアイゼンとピッケルの使い方を指導する。

超ベテラン 2 人が前後から指導するので抜かりはない。第一火口底は 2420m で 40m 下り、宝永山の稜線の分岐は 2710m で 290m 登る。17m 下って宝永山頂上が 2693m。



宝永山第一火口

宝永火口底から稜線までの290m。見た目はシンプルな光景で楽そうだが、なかなか手強い。登り始めると猛烈に暑く、次々と服を脱いだ。

右手を見ると雪面に太陽の光が照り返し、まるで海面に反射する太陽の光のよう。稜線にたどり着くと、今度は強風に襲われた。急いで防寒のためにカップやニット帽を身に付ける。火口の縁から宝永山までは、雪の白い道が浮かび上がっているようだ。

下界は雲海に覆われている。御殿場口側の少し上の方に数名がいて雪上訓練をしていた。稜線の東側はきれいな雪庇が続く。稜線を緩やかに下ると、先端が宝永山山頂だ。

山頂には、大きな大理石の方位盤がある。周囲の杭とロープにはエビのしっぽの氷ができていた。

歩き始めて約5時間たち、しっかりおなかがすき、宝永山はさっさと下山。下山開始しすぐにホワイトアウト。足元は見えるので踏み跡で道をそれることはない。火口底までの道中では、次々と登山者が登ってくる。

ほとんどが簡易なアイゼンをつけていた。その中に、先週同じ場所で出会った富士市の56歳の人と再会した。実は、宝永山に一度も登ったことがない私は先週一人で宝永山に挑戦していた。

その時はまだ雪はなく、雲海も風もなく、二ツ塚を真上から見て感動していた。その先週の土曜日の同じ時間に宝永山に登り、次の日曜にも同じ時間、同じ場所にいたことになる。何という運命的な出会い。



素晴らしい世界

しかし、「また会いましたねー」ぐらいの会話で挨拶をして、すれ違っていった。いつかまた会うかもしれない。

第一火口底にあるベンチとテーブルで昼食。周囲で雲ができては消える。富士山では雲と同じ高さにいるのが楽しい。宝永山の頂上で雲がなかったのはラッキーだった。

30分も違えば頂上も真っ白だった。昼食後、アイゼンを外し17mの登り返し。思ったよりきつい。何より食べ過ぎて腹が苦しい。

やっと火口の縁に立つと、ようやく本日の登りが全て終わり、ほっとする。ここからはザックザクと下り、登った道を帰る。森に入ると倒木が多い。登りが単調であったように下りも単調。残り30分という標識のところで、加藤さんからミカンをいただき一服。

傾斜が緩くなり、水ヶ塚公園にゴール。車のワイパーには河野さんの「帰ります」メッセージがはさまれていた。富士山は雲の中だった。

山田さんの一口感想

初の雪山登山。宝永山山頂も初めて。アイゼンもピッケルも重くて難儀したが、雪の斜面と青い空と雲海はすばらしかった。最高の景色と体験だった。

以上



方位盤



昼食